

紀伊水道に出現したなぞのエビの正体は？

次長 上田 幸男

Key word ; *Ibacus ciliatus*, ウチワエビ, フィロゾーマ, 紀伊水道, 小型底びき網

平成 19 年 5 月 15 日に小松島漁協の元根井支所から「これまで見たことのない全長 4~5cm のエビかシャコか虫かわからないような生物が小型底びき網で漁獲されたので鑑定してほしい」との依頼がありました。さっそく図鑑を手に現場にお邪魔したところ、一目見てイセエビ類の幼生であるフィロゾーマであることがすぐわかりましたが、これまで見たことのない大きいフィロゾーマだったので驚きました。周囲にいた 10 人程度のベテラン漁業者の皆様も異口同音に「長い間漁師をやっているけどこんなもの見たことがない」と話されていました。

イセエビ類やロブスターの仲間は孵化後、親と全く異なるフィロゾーマの状態の数ヶ月から 1 年間外洋を浮遊し、フィロゾーマから変態、着底後プエルルス、ガラスエビを経て親と同形同色になります。この生物を漁獲した漁師さんによると、5 月 14 日 19:00 に紀伊水道北部の水深 45~46m で操業中、漁獲物の中から発見されたとのこと。水産研究所に持ち帰り文献(関口 1998)で詳しく調べたところウチワエビの着底する前の後期フィロゾーマであることがわかりました。徳島県沿岸にはウチワエビ *Ibacus ciliatus* とオオバウチワエビ *Ibacus novemdentatus* の 2 種類が分布していることから、さらに詳しく知るためにイセエビのフィロゾーマ研究の専門家である(独)水産総合研究センター西海区水産研究所の吉村 拓沿岸資源研究室長に写真をメールで送り、鑑定を依頼したところフィロゾーマのサイズが大きいこと、及び第 5 脚が頭甲に覆われていない、甲部背面の巨歯が一つであることからウチワエビ *Ibacus ciliatus* であることが判明しました。過去に県外で海岸に打ち上げられたり、養殖生け簀に付着していたり、船曳網で混獲された事例があるようです。

徳島県ではウチワエビは本来太平洋域に分布し、紀伊水道域に多くは分布しませんが、5 月 14 日の人工衛星水温情報によると紀伊水道の和歌山県側から反時計回りの強い黒潮系水の流れが見られることから、その流れに乗って太平洋域から紀伊水道内へ運ばれ、着底しかかったものと想像しています。徳島県海域でこのような大型のフィロゾーマが採集された事例は初であり、記して記録として後世に残したいと思います。標本は生きた状態で提供していただきましたが、遺伝子が抽出できるように 70%アルコールにて固定し、水産研究所美波庁舎の資料展示室に保管しました。



写真 1 平成 19 年 5 月 15 日に紀伊水道で採集されたフィロゾーマ。うちわに似た胴体の形状がウチワエビのフィロゾーマの特徴です。

参考文献

関口秀夫;イセエビ類の生活史. 海洋と生物, 54, 1988,13-17.